



環境性乳房炎対策および抗生物質残留事故防止について

本年は降水量が多く、湿度の高い日が続いています。牛舎内の温度上昇に加えて湿度が高く、環境性乳房炎の原因菌（環境性レンサ球菌、表皮ブドウ球菌、大腸菌群など）が増殖しやすい条件にあります。

暑熱対策と併せて牛舎内の湿度のコントロールを図るとともに、牛床の乾燥をいつもより意識し、環境性乳房炎の発生を予防しましょう。さらに乳房炎の増加に伴って、抗生物質残留事故のリスクも高まりますので注意が必要です。

□湿度コントロール

- ・制御インバータは設定温度以下では稼働しないため、作動温度の調整や手動への切り替え等により換気扇を稼働させ換気を行う。また、空気のとどみがある場所は、近くの窓を開放し、空気を動かす。

□牛床の乾燥

- ・こまめな除糞、敷料交換、石灰資材の利用により牛床を乾燥させる。
- ・敷料としてオガクズを使用している場合は、大腸菌群による乳房炎の発生リスクが高まります。この場合、消石灰を3～5%（オガクズ2㎡に一袋20kg）程度を混合することで、大腸菌群の増殖を抑えることができます。

※環境性乳房炎の予防対策の詳細を普及センターのHPに掲載しています⇒



□抗生物質残留事故を予防する対策

宗谷管内における令和5年度の抗生物質残留事故は9件発生しており、そのうち3件が9月に発生しています（図1）。8月中旬以降は2番草の収穫時期であり、暑さも重なり、心身ともに疲労がピークになるため、意識的に乳房炎の発生予防と併せて、抗生物質残留事故の防止対策を強化しましょう。

- ・抗生物質の投与牛は、誰が見てもわかるように複数のマーキングをする。
- ・家族内、従業員、ヘルパーへの連絡を徹底し、ミーティング時やホワイトボードなどで意識的に情報を共有する。

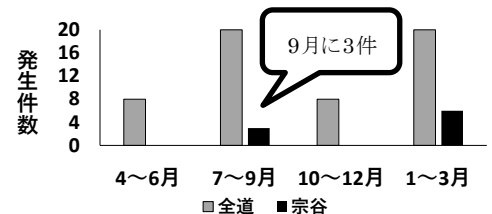


図1 令和5年度抗生物質残留事故の発生件数
家畜衛生そうや第163号から引用

情報満載のホームページ(HP)QRコードからGO!

